

に導入して育成を図る。

概要

従来の竹製品は、一般的に素地の自然色調が好まれてきているが、最近では染色製品も自然色製品と同等の市場性を確保しつつあるので、意図にそって設計し大型花籠と壁掛けについて研究 試作を実施した。

染色

竹製品の染色は、色調の鮮明と経済性を考

慮し、染料を用途に応じて選択し適正な濃度と温度と時間で染色を行なうことが条件であり今回の試験染色は色調を変化させない方法で染色を行った。

成果

編組加工技術の業界への導入については、一応の成果を得ているが、ポイントとなる色調を変化させない方法については、まだいくつか難点があり、継続して試験中である。

県産未利用材の表面処理技術の研究

堀 切 政 幸

1. 目的

奄美産材の開発研究の一貫として、表面処理技法の改善を試み、その過程を中心に取上げて、そのなかから未利用面への応用普及を計るものである。

2. 概要

樹種による用途性も巾広いもの、外材等に比べて小経木が多く、木理も通直な材が少ないのでその特有な材質をいかすことが有意義と思われる。表面処理技法のなかで彩色することより木肌を充分にいかし得る薬品処理法を主体にその処理効果を試みる。

3. 成果

最も効果的と思われる手法例を試験過程のなかからあげてみる。

3-1 クロバイ

木酢酸鉄水溶液による処理法で、クリヤーラッカー仕上げを行う。

3-2 エゴノキ

阿仙薬による着色で、クリヤーラッカー仕上げを行う。

3-3 イタジイ

一般的な薬品処理と焼き及び目出し加工を施し、各発色度の基礎開発を行った。

3-4 イジコ、タブ材

ポリウレタン樹脂によるステイン調色で着色を行い同樹脂により艶出しを行った。

3-5 イタジイ、サクラツツヂ、シヤリンバイ、イジコ等の樹種による床柱材として、漂白による表面処理法の加工で実施に移している。